

見つめる目

しなやかな心

医療を支える 看護の手

看護部だより

2014 年

7 月号

第 279 号

特定医療法人衆済会
増子記念病院
看護部
部長 上村 志磨子
(認定看護管理者)

「愛少女ポリアンナ物語」を思い出して

「よかったエネルギー」

参与 佐藤 久光

ワールドカップでは残念ながら、日本は決勝トーナメントに進めませんでした。しかし、選手はみなさん、よく頑張りました。他国のサッカー選手の動きを見ていても、必死です。こういう「戦い」は勝っても負けても清々しいものが残ります。その一方で、世界各地で相変わらず激しい戦争や争いごとが続いています。「21 世紀は、『共生』の世の中になるかなー」と、ふと期待していたのですが、この世紀もまだまだ、「お互いの違いを認め合い、共存共栄できる社会の実現」は無理なようです。いや、むしろ、ナショナリズムが台頭して、時代の歯車が逆に回っている感じすらします。

争いのない世の中になって欲しいとつくづく思いますが、それは無理でしょう。せめて、「戦う」エネルギーをサッカーなど、スポーツで昇華したいものです。

1 私は見た

それは、1 ヶ月ほど前の、名鉄一宮駅前の喫煙所でのことです。私は、そこである光景を見たのです。

公共の喫煙所ですが、その周囲には空き瓶や空き缶が数個、転がっていたのです。「いつものことだなー。喫煙者のマナーは悪いな」と思っていました。そこに、短いスカートをはいた若い女性がやってきました。そして、その空き缶や空き瓶を拾っているではないですか。「おやっ、この子のゴミだったのかな？」と思ったのですが、どうも様子が違います。その女性は、少しはにかみながら、辺りをきょろきょろしていました。

私と目が合いました。一瞬、ドキッとして、「あの…」と声にならない声を出してしま

ました。

ところが、彼女は、そんな私のしぐさには目もくれず、道路の向かい側にあるコンビニを見つけ、その空き缶と空き瓶を持って、捨てに行っただけです。私は、茫然とただ、その彼女の行動を見守るだけでした。

「今度、そこに空き缶が落ちていたら、私も捨てに行こうかな」と、ふと、そんな気持ちになりました。

2 私はまた見た

私は仕事を終えて、名鉄一宮駅で乗り換えて、津島線の電車に乗りました。そこは、始発になります。席は十分に空いています。私は、普通に座りました。ただ、電車の床に空き缶が 1 つ転がっているのが目に入りました。「マナーの悪い客がいるものだ」と思い

ました。そのうち、車掌さんか誰かが片づけるだろう、などと考えるのではなく、ぼんやりとしていました。

すると、高校の制服を来た女子学生が一人、入ってきました。そして、その空き缶を見るやいなや、少し、発車時間が気になるようなそぶりをして、しかし、素早く決断して、それを拾いホームのゴミ箱に持っていき、捨ててきたのです。

電車内に戻ってきた彼女を、私は、そっと覗き見しました。彼女は、何事もなかったように外を見ていました。

3 「愛少女ポリアンナ物語」

もう、30年ちかくも昔のことでしょうか。私は、日曜日の19時30分からの「世界名作劇場」のテレビのアニメ番組をよく観ていました。

そのなかで、「愛少女ポリアンナ物語」というアニメを忘れることができません。牧師の父と主人公のポリアンナという娘が、2人で暮らしていました。ポリアンナはまだ、小学生にもならない子どもだったかな。父はいつもポリアンナに語りかけます。「よかった探しをしなさい」と。

そんな優しい父が病気か何かで亡くなってしまいます。ベッドサイドでポリアンナは叫びます。「こんなに悲しいのに『よかった』なんて探せない」と。

しかし、ポリアンナは、さまざまな人々の助けを借りて、「よかった探し」を続けるのです。

4 「よかった探し」

その成長の過程に出てくるのはいつも「よかった探し」なのです。どんなに辛いことがあっても「それは自分を成長

させるための試練なのだ。よかった」と考えるのです。

足の不自由なおばさんの家にポリアンナはお手伝い（介護）に行くことになりました。近所でも評判の「嫌われ者」のいじわるなおばさんです。部屋は昼間でもカーテンで閉められて暗くしてありました。ポリアンナは「外は明るくて気持ち良いですよ」と勝手にカーテンを開けます。おばさんは怒ります。「こんな素敵な太陽の光が嫌なんて、おばさんは、よほど、辛いことがあったのですね。一緒に『よかった探し』をしましょうよ」などと、明るく振る舞います。「なんて変な子でしょう。この子は、もう明日から来ないと思っていたのに、いつもニコニコしてまた、私のところにやってくる。この子は変な子だ」とおばさんは思いました。そして、やがて、ポリアンナと一緒に外出するまでになったのです。街の人々は驚きます。「あのおばさんの笑顔を初めて見た」と。

5 「よかったエネルギー」

「よかった探し」をして、それをどんどん広めたいものです。実は、悪いニュースの数倍以上は、よいできごとが毎日生じているのです。悪いニュースよりも、目立たない素晴らしい出来事に目を向け、この地球上に「よかったエネルギー」を充満させましょう。

ワールドカップでの日本人サポーターの「ゴミ拾い行動」は、世界中の人々の心に「ゴール」させました。戦いは、「勝ち負けだけじゃない」と。

1勝もできなかった選手たちを、空港で出迎えたサポーターたちは、「お疲れ様でした」の笑顔の看板を掲げていました。

以上

学生コーナー

時間が過ぎていく中で

4 階病棟 学生桑畑夏恵

地元、九州から名古屋に出てきて 4 年目になりました。出てきた当初は、「4 年もあるなんて長い」と思っていました。

最初は不安であった名古屋での生活も 1 年過ぎれば慣れ、働きながら学校に通う日々に対して気持ちの部分でも落ち着いてきていたと思います。正直 1 年、2 年と過ぎていくときは、「時間があるから大丈夫だ」という思いが心の中にありました。

しかし、最高学年となり、実習が増えてくると、「もっと事前から学習しておけばよかった」などとあとから思い残すことが多いです。それでも時間は過ぎていくので、学習する時間が限られるほど気持ちが焦り、「時間の使い方は大切だ」と改めて痛感します。

これまで時間が過ぎていく中で、何度も心が押しつぶされそうになったことはありました。それでも乗り越えられたのは、周りの同期や後輩からの励ましだったり、看護師さんからの励ましだったり、たくさんの支えがあったからでした。その中でも、特に患者さんの笑顔や励ましの言葉が一番強かったです。

以前の実習で、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の既往があり、肺癌疑いで手術を受ける患者さんに呼吸法について指導を行いました。その患者さんから退院される前に、「初めての手術で不安だったけど、あなたがいてくれたおかげで元気になれたし、呼吸って

こんなに大事って知らなかった。励みになった。ありがとね。」と声をかけてくださったことが今でも忘れられません。

また、工作中でも「あなたの笑顔を見ると元気になる。」と患者さんから声をかけられたことも印象に残っています。このような患者さんからの言葉は、自分にとって、とても励みになり、改めて看護師っていい職業だなと感じています。

まだまだ知識や技術は足りないことがたくさんあります。限られた時間の中で「あなたに受け持ってもらってよかった」と患者さんから感じて頂けるように、学習を深め、実習に取り組みたいと思います。また、笑顔を絶やすことなく、日々の仕事でも患者さんとの関わりを大切にしたいです。そして、国家試験に向けても、時間を有効に使い、学習していきたいです。

以上

部署報告：外来

大腸内視鏡検査の腸管洗浄剤

ムーベンからモビブレップへ移行して

外来 井上みや子 伊藤陽子

1 腸管洗浄剤の変更

大腸内視鏡検査は、確実な診断・治療を行うために、前処置による腸管内洗浄は重要です。当院では、大腸内視鏡検査の腸管洗浄剤『ムーベン』を使用していましたが、平成 25 年 11 月より『モビブレップ』を導入し、完全移行となりました。今回、『ムーベン』と『モビブレップ』の内服方法と前処置の相違点（コスト面、患者への負担、食事制限）についてまとめたので報告いたします。

2 相違点

<ムーベン>

事前の下剤：前々日 21 時にセンノサイド 2 錠服用、前日 21 時にマグコロール P 1 包+ピコスルファートナトリウム内服薬 0.75%1 本服用。

食事：前日は 3 食すべてエニマクリン食(低残渣食)、水分負荷は 10 時、15 時、20 時にコップ 1 杯以上の水またはお茶、サイダー、無果汁のジュースを飲水。

(透析患者は主治医の許可水分量範囲内)

服用方法：検査当日、ムーベン 1 袋+ガスコンドロップ 20m 1 を水 2,000ml で溶解、うち 1,000ml を 1 時間かけて服用。

(必要時追加服用。)

味：「飲みづらい。まずい。」

コスト：エニマクリン食 1290 円 (3 食)、ムーベン 460 円

<モビプレップ>

事前の下剤：前日 21 時にピコスルファートナトリウム内服薬 0.75%1 本服用。

食事：前日は常食、水分負荷はムーベんと同様。

服用方法：検査当日はモビプレップ 1 袋+ガスコンドロップ 20m 1 を水 2,000ml で溶解、うち 1,000ml を 1 時間かけて服用。1,000ml 服用後、水またはお茶約 500ml を 30 分かけて飲水してもらう。

(脱水予防のため)

味：「以前の物より飲みやすい。」

「飲みやすい。」

コスト：モビプレップ 830 円

3 まとめ

『モビプレップ』のメリットとしては、前々日のセンノサイド、前日のマグコロール P の服用が無くなりました。食事に関しては患者にとって制約が無くなっただけでなく、コスト面でも検査食代 920 円分の患者負担が軽減されました。飲水に関しては、腸管洗浄剤以外にお茶やお水が飲水出来るようになりました。また、味に関しては以前より飲みやすいという声がありました。

しかし、排便スケール上④以上になっても、実際に検査をはじめてみると、腸管内に残便を認めるケースがあります。要因として、血液透析患者は一般患者に比べ、水分制限があり、便秘傾向の患者もみられます。また、前々日の下剤、検査食がなくなった影響もあると考えられます。

そういった場合の対応として、腸管内を洗浄しながら検査、治療の出来るスコープを使用している現状です。

今後の課題として、患者の声やデータ収集を行い前処置（下剤、食事）について検討していきたいです。

以上



連載：がん闘病記 ④

えっ！ステージⅣ？

手術室 打田潤子

前号（277 号）の当コーナーに載せるべき原稿を誤って、一部、カットしてしまいました。「3 つ目と 4 つ目の『夢』」の部分です。今号に改めて、掲載させていただきました。

（なお、分かりやすくするために 2 つ目の夢を重複して掲載しました）

二つ目の夢。実習模型のカタログの表紙にあった赤ん坊の顔に似た子供が、何体も折り重なって壊れた家の二階から一気に落ちてくる。街灯が点いているところを見ると夜のようだが、あちこちに若者の影がある。その周囲の別の建物も壊れている。一見、ヨーロッパのどこかの街角のようだ。一組の若い男女が壊れた建物の横で眠っている。急に場面が変わり、どこかの広場のようだ。又、あの赤ん坊顔の子供があちこちにいる。何人かの集団が空を飛んでいる。その中の一人が、私を目指し飛んでくる。でも普通の身体ではなく、どこか切れている。電気のこぎりで切ったように裂けている。普通なら死んでいるような体なのに妙な笑いを浮かべて飛んでくる。真昼の光の中、楽しそうにケタケタ笑いながら飛んでくる。当然、私は逃げる。私は空高く飛んで広場から脱出する。広場だと思ったのは、大きなガラス張りの体育館のようなところだった。外に出ると、年配の男性が何人か並んでいる。表情は何かを恐れているようだ。そこの場からも離れ、遠くへ遠くへ飛んでいく。

三つ目の夢。何故か 0 0 7 の世界にいる。大きな船のマストの上に立っている。マストの上には私以外にもずらっと人が立っている。船から脱出するために私は飛ぶ。いくら飛んでもマストから降りることが出来ない。そのうち、船の中に入り込んだ。気が付くとまた外にいる。船のマストは一つしかないが、大きく決して安定しているわけではない。そのマストにはやはりずらっと人が並んでいる。私はまた飛び立つ。

四つ目の夢。私は、やはり空を飛んでいる。すると突然、「一本や二本運ぶのにとろとろやっつけられるか！」と大きな声とともに蒸気機関車が走って行く。下を見ると、夜のようなが、たき火が焚かれ周囲を明々照らし出している。その周りには兵隊たちが座ってタバコを吸って休憩している。場所は、緑の木々がぎっしり生えているどこかの山の中だ。しばらく飛び続けると、今度は、別の部隊が一行に並び山中を歩いて進むのが見える。私は、ああこれは朝鮮戦争なんだなと思っている。

ふと目が覚めた。なんだ今の夢は、妙にリアルで記憶に残っている。フットポンプは相変わらず規則的に動いている。

以上

（この後に 277 号へと続きました。）

ちなみに、以下が 277 号の書き出しです）

16 術後は日にち薬

術後 4 日目、日曜日とあって昼ごろから次々と面会があった。この日は昼食から食事開始となる予定であった。……

<前号「看護部だより（278号）」の感想>

2 階病棟 加藤悦子

「学生コーナー」を読んで

私は、看護学校を卒業してから十何年も経ちますが、今でも実習中の事はよく覚えています。

今でも、実習記録は処分できずに、保管しており、時々読み返し、「この時は、こんな風感じていたんだ」と懐かしく思い返すことがあります。

私たちは、学生さんの実習中の様子を見ることはできません。しかし、一緒に仕事をしていると、学生さんたちの成長ぶりは、よく分かります。そんな成長した姿を見てみると、有意義な実習をさせてもらっているんだなというのは、とても感じますし、逞しくなっていく姿を見られることを嬉しく思います。

いつも、学生コーナーでは、社会人になりたての頃の気持ちや、学業との両立で悩んでいた自分のことも思い出させてくれます。しかし、さまざまな悩みや葛藤を乗り越えたことで、今の自分があると思っています。

学生さんが、もし今、何かを悩んでいたたり、躓いていたりしているのであれば、それらの事柄に無駄なことなどひとつもありません。今後、自分たちに必要な事だと思って、果敢に挑んでいってほしいと思います。

私は、学生時代、先輩に「大変とは、大きく変わるってことだよ」と教えられました。これは、「今」が大変でも、それを乗り越えた先には、自分が大きく成長しているということ、だと私は解釈しています。

そして、いろんな困難な状況で大変なときは、この言葉を思い出し、「未来」の成長した自分を想像し、頑張ってきました。

私たちも、まだまだ成長の途中です。これからも、一緒に頑張っていきましょう。

以上

増子記念病院の改築
新館の一部がオープンしました。

